

第4期第3回詳報

# 従業員再生の力に

## 地震保険始動を後押し



知らせた。震災の保険金支払額は全国で約1兆3000億円に達したという。

柴田さんは「人は何かを失ったときに、ショックを受けて落ち込むものだ。地震保険は被災で生じたマイナスをゼロに近づけ、プラスに向かつて行動する力を与える商品だと考えている」と述べ、経済的な備えを促した。

東日本大震災の伝承と防災の担い手育成を目的に河北新報社などが開く通年講座「311『伝える／備える』次世代塾」第4期は7月、第3回講座をウェブ配信した。宮城県南三陸町の水産加工会社「行場商店」社長の高橋正直さん(58)が事業継続、日本損害保険協会東北支部事務局長の柴田文明さん(51)が地震保険をテーマに講義をした。

行場商店は2011年3月、震災の津波で2工場が全壊し、被害総額は約10億円に上った。企業地震保険の保険金と被災企業の施設復旧を支援する国のグループ化補助金を資金に再建を進め、同年8月に事業を再開した。

発生当日、従業員70人が避難をして全員無事だった。高橋さんは「一人でも犠牲者が出ていたら、海の近くで事業を再開できなかった。従業員が再生の原動力になった」と振り返った。

損保協会の柴田さんは震災発生後、被災者が地震保険を速やかに受け取れるように、被災地の避難所などを回って手続きや連絡先を



津波で大きな被害を受けた行場商店の旧工場  
＝宮城県南三陸町、2011年4月16日

### 受講生の声

×モ 311「伝える／備える」次世代塾を運営する推進協議会の構成団体は次の通り。河北新報社、東北福祉大、仙台市、東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工業大、宮城学院女子大、尚絅学院大、仙台白百合女子大、宮城大、仙台大、学都仙台コンソーシアム、日本損害保険協会、みちのく創生支援機構。

### 命があればこそ

行場商店が大きな被害に遭いながら早期に事業を再開できたのは、保険や補助金制度と、何より従業員全員が無事だったからだと感じました。重要なのは命を守る備えと復興への備え。医療従事者を目指している私も、一人でも多くの命を救いたいと思いました。(仙台市泉区・東北福祉大3年・竹中ゆめさん・20歳)



### 保険の備え大切

「被災後の生活を具体的に想像してほしい」という柴田文明さんの言葉が印象的でした。自分の生活に合った地震保険の保険料を支払い、もしもの時に後悔がないよう備えることが大切だと知りました。最近では災害が多いので、いろいろな保険について勉強したい。(仙台市青葉区・仙台大3年・宍戸翔紀さん・20歳)

